

第 65 回入学式が行われました。

4月9日（水）

今年の新入生は 39 名、一昨年度より制服が新しくなっており、これで全学年がそろってのスタートになります。新入生は緊張した面持ちで式に臨んでいましたが、入学式を終え教室で HR して外に出てくる頃にはリラックスした表情の子も多くなっていました。これで本年度の青垣中学校全校生徒 146 名が全員そろったことになります。職員一同、子どもたちの成長に向け最大限の努力を重ねてまいりますのでご支援・ご協力のほどよろしくお願いします。また、全教職員で精一杯新入生をサポート（支援）していきます。家庭や地域でも、帰宅後に生徒の思いをしっかりと聴いていただき、あたたかい声かけや励ましをお願いします。また、上級生が手分けをして新 1 年生を学校まで連れてきてくれました。自転車置き場や学級を確認し、教室まで案内してくれました。2 年生は一つ上の先輩として、3 年生は最高学年としての自覚を持って成長を続けているのを感じる新学期です。私は短いメッセージでしたが祝福・激励の意を伝えました。その中でも強調したのが学校教育もある『自ら学び 自ら鍛える』ということです。当日の喜び、緊張、決意を忘れることなく、三年間、充実した中学校生活を送ってほしいと思います。



（以下は学校長式辞より）

花だよりがあちこちから聞かれる頃となり、まさに春本番の今日の良き日に、丹波市立 青垣中学校第 65 回入学式が挙行できますことは、青垣中学校教職員一同このうえない喜びです。39 名の新入生のみなさん、入学おめでとうございます。みなさんは、ただいまから青垣中学校の第一学年の生徒です。名前を呼ばれ返事をする 39 名の皆さんを見ていますと、どの生徒も元気よく態度も立派で、中学生としての自覚と決意にあふれていて、頼もしくまた、うれしく感じました。まずは、ここにいる二年生、三年生の先輩たちを見てください。姿勢が良く、目が生き生きとしており、きびきびと行動できる先輩たちです。練習だろうと本番だろうと同じ力を発揮し、人に見られていようと、いまいと、真剣に取り組む先輩たちです。学校生活での手本とし、先輩たちと一緒に「地域に誇れる青中生」となってください。さて、中学校生活のスタートにあたり、みなさんをお願いしたいことが三つあります。

一つ目は、「よき学習習慣を身につける」ということです。本校では、全校生が、毎日六十分以上の家庭学習をし、毎日一冊以上の自主ノートを担当の先生に出す取組をしています。部活動での疲れや遊びたい心と戦い、時間をみつけどしてできる人が増えました。この、よき学習習慣は、将来を切り拓く力となるでしょう。

二つ目は、「思いやりの心をもつ」ということです。



思いやりの心は、すべての人は助け合って生きているということの実感と自覚から生まれます。学校生活を通じて支え合う実感と自覚を強くしてください。思いやりを通じて出来た友人は生涯の宝、これからの人生を豊かに、力強く支えてくれます。

三つ目は、「自分から学び、自分から鍛える」ということです。自分から進んでしたことは、言われてからした時より何倍も、自分の力になり、やがて、自分の財産になります。失敗することもあると思いますが、むしろ、失敗の方が、自分を強くしてくれるのかもしれない。



青垣中学校は、「ふるさと青垣を愛し、自ら学び、たくましく生きる児童生徒の育成」という教育目標を掲げています。これは、青垣小学校と同じです。青垣地域の4つの小学校が統合してから、九年間を見据えた小中一貫教育を進めているため、同じ目標になっています。また、「自ら学び、自ら鍛える、地域に誇れる青中生」という、本校独自の目標も掲げています。登校道路の右側に置かれた大きな石には、「自ら学び、自ら鍛える」と、刻まれています。



さて、保護者の皆様、お子様のご入学、誠にありがとうございます。中学校の制服に身を包んだ姿をご覧になり感慨もひとしおかと思えます。大切なお子様をお預かりした大きな責任を果たすよう、私ども青垣中学校教職員一同最大限の努力をする決意でございます。一つお願いがあります。それは、人と比較して育てないことです。一

つの個性を持った人間として、時には優しく時には厳しく接していただきたい。21世紀を支える青垣の子ども達のためにこれまで以上のお力添えをいただきますようお願いいたします。式辞といたします。

最後になりましたが、丹波市当局をはじめ、本日入学式にご臨席いただきました丹波市教育委員会 吉竹様、青垣小中学校学校運営協議会の皆様には、新入生に祝福と励ましをいただき誠にありがとうございました。今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

令和7年4月9日 丹波市立 青垣中学校長 井本 健吾

